

登録コード	HM133300	開講年度	2026			
授業題目	腫瘍病理学特論					担当教員 藤井 千文 他
英文授業名	Tumor Pathology					副担当 山中 仁木・川久保 雅友
単位数	2	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期	対象学生
講義室			授業形態	講義	備考	
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標/course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素					(授業の達成目標)
	2026HM医学分野加, 2025HM医学分野加, 2024HM医学分野加, 2023HM医学分野加					
	【専攻】医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能					腫瘍の病態形成並びに診断における病理学の重要性を理解することができるようになる。
(2)詳細 /Detailed information	腫瘍の発生メカニズム並びにその悪性化に関わるメカニズムを理解する上で、病理学的なアプローチからの研究は極めて重要である。本授業では、腫瘍の病態形成並びに診断における病理学の重要性を理解することを目的としている。					
(3)授業の概要 /Overview of course	消化管腫瘍を中心とした病理診断、癌進展の分子機構、ヘリコバクターピロリによる胃発癌のメカニズムについて講義を行う。					
(4)授業計画 /Course plan	(第1～5回 藤井千文) がん進展の分子機構 (第6～10回 川久保雅友) ヘリコバクターピロリによる胃発癌のメカニズム (第11～15回 山中仁木) ヘリコバクター属菌を含む常在細菌と消化管腫瘍発生					
(5)成績評価の方法・基準 /Grading/evaluation method/evaluation criteria	成績評価の方法：第16回の授業終了時にレポート提出を求める。 成績評価の基準：(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している(秀)」。(i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある(優)」。4項目までできていれば「やや上にある(良)」。3項目までできていれば「水準にある(可)」と評価する。					
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/Reference work(s)	学会出席など致し方ない場合を除き、欠席することなく出来る限り出席すること。また、授業内容に関連した文献を配布するので、事後学習に活用すること。					
(7)質問,相談への対応/Questions and requests for advice	各担当教員に直接連絡を取ること。					
(8)授業の形式 /Course format	PCを使用する。必要に応じて参考資料を配付する。					